

# 重大事故 続発! いまこそほんとうの安全を!

## 展 望

NO. 183

(発行)

日本共産党  
神戸製鋼委員会

{ 連絡先 }

(住所)

神戸市兵庫区新

開地 3-4-20

(電話)

078-577-6255

(FAX)

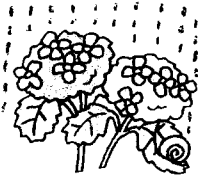
078-577-2240

読者の未来を限らず

しんぶん 赤旗

日刊: 月 3,497円

日曜版: 月 823円



**重大事故・続発!**  
神鉄棒鋼工場での相継ぐ重大事故。時系列に並べると左記のとおりです。

① Aさん(58才、勤続40年)。12年5月31日6時頃、加熱炉で装入ブッシュャー昇降用パランスウエイトが衝突。肋骨や坐骨の骨折、股関節脱臼で三か月間休業。

② Bさん(61才、勤続43年)。14年4月26日0時45分No.1コールドシャー設備地下においてストライカーと架台の間に胸部を挟まれる。現在も入院中。

③ Cさん(21才、勤続3年)。5月7日5時20分No.2コールドシャー設備のバイトホルダーとフレームの間に左骨盤を挟まれる。5月20日、亡くなりました。

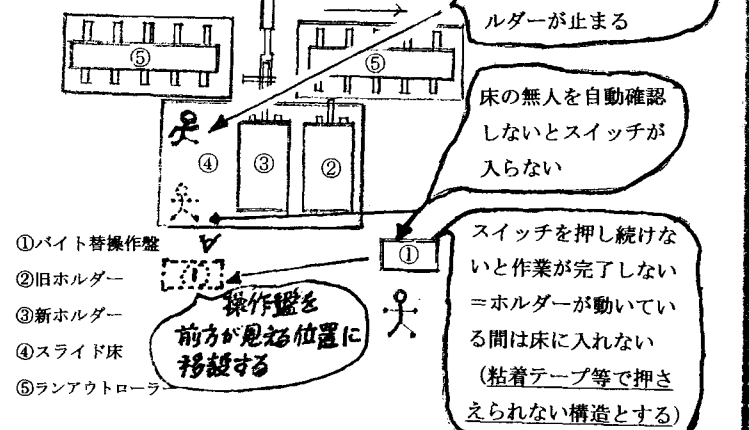
どれも動く機械に挟まれる事故です。②③では「危険個所を見逃し防護措置を施していなかった(災害調査報告書)」ことが最大の原因とされています。①の後、全域で危険個所を抽出して防護措置が取られておれば②③は防げていたのです。会社の「安全配慮義務」(労働法第3条)違反の疑いが濃厚です。なぜこのような事故が起ったのでしょうか? ①では、被災者が安全処置(電源を切り赤旗表示する)を行わずに立入許容限界に入った「不安全行動」が原因とされ、対策も「注意喚起表示を行う」以外は「ルール遵守」の徹底に終始。このように原因を作業者のミスとして「不安全行動」の撲滅を強調する安全対策では、設備対策が軽視されます。そのツケが今年の事故です。

事故後、若者の間で動揺と不安が広がっています。働く者の命を守るために、いまこそ安全対策の根本的転換が求められています。

### まずは設備側の安全対策を

不安全行動を減らすことは重要です。でもそれだけでは事故を防ぐことはできません。どんなに教育・訓練をしても、人間のミスは避けられません。そのミスを事故に直結させないためには、設備側の安全を高める以外にありません。安全柵も対策の一つですが本質的な策ではありません。事故の教訓は時間の経過とともに風化します。将来、作業効率を

### バイトホルダー組替作業の(体的対策)



高めようとして安全柵を無視する人が現れるかもしれません。バイトホルダー組替作業の事例で考えた図のような本質的な対策がどこでも必要です。

いま労基署の指摘もあって、危険個所の抽出が進められています。安全はタダでは達成できません。真つ先にやるべきことは危険個所の安全を設備で確保することです。この立場での設備投資の強化を強く要望します。設備保全の外注化によって設備に関する知識と経験が社内に蓄積されなくなり、そのことが安全を脅かしています。人を増やして、社内の設備保全部署を強化すべきです。

### 若者の一人作業をなくそう

③のCさんの事故は一人作業時のものでした。一人作業は危険だということは今や常識ですが、特に若者にとってはそうではありません。いま入社後5年間は系統的に教育が行われています。この期間は、各職場に合った「一人作業禁止の作業」を決め、定常非定常にかかわらず危険を伴う全ての一人作業は禁止とする。更に一人作業しなくて済むように十分な休憩時間と点検修理時間を織り込んだ生産計画と、要員を増やす雇用対策が不可欠です。

### 被災者への懲罰的対応を改めよ

「事故を起してからは完全に犯罪者扱いであつた」、ある被災者の言葉です。

事故を作業者の注意力や感性のアップで乗り切ろうとする安全対策の下では、事故でケガをすると、本人のせいになされ、被災者は針のムシロに座らされます。その上、チームも本人も評価が下がり、一時金は即、減額です。これが労災隠しの温床となります。なによりも、事故の原因を追究してみんなで問題解決に向かおうという職場の意欲を低下させます。

### いま問われていること

生産現場では入社以来「良い製品を安く作るために、生産効率を向上させることが使命」と教えられてきました。一方で「安全第一」も云われ続けてきました。「安全第一」とは、安全のために「設備を止めてでも対処せよ」「生産効率を低下させても良い」ということです。これは先程の使命とは明らかに矛盾します。この矛盾する言葉に対して、現場は経営陣の本音はどちらにあるのかを長年の経験から察知して行動します。現状は明らかに「生産第一」となっていると云わざるをえません。

安全と生産の矛盾を認めたと上で、それをどう乗り越えるか？それを示さない「安全第一」はごまかしです。いま経営幹部に問われているのは、ごまかしのない説明責任と本気度です。

本場の「安全第一」を実行すると、短期的にはコストがアップし稼働率が下がるかもしれませんが、長期的にみると、事故が減り、稼働率が上がり、コストも削減されます。また重大事故のない会社に対する社会的評価も上がります。

### 労働者一人ひとりが決意しよう

事故後、所長・部長のパトロールが強化され多くの指摘がされています。しかし、現場のことは現場が最も知っています。安全の対策やルールは自分たちで作ってこそ、守る気にもなります。労働者同士が命と健康を守りあえる風通しの良い職場をつくる決意を固めて安全に向き合い、労働組合にも働きかけていきましょう。

共産党神鋼委員会は6月27日に労基署へ安全問題で「申し入れ」を行いました。これからも重大事故のない職場を目指して頑張ります。

### 安倍内閣の「残業代ゼロ」…成果を評価するというけれど？

### みんなぞストライク！

「残業代ゼロ」過労死促進」「成果で賃下げ」の労働法の改悪

安倍政権は、成長戦略の名のもとに、労働時間ではなく、成果で賃金を決める「新しい労働時間制度」など、労働法の改悪に向けて動きました。

この制度が導入されると、「1日8時間」「週40時間」を超えて働かせてはならないという、労働基準法の歯止めが一切無くなります。

残業代も、深夜・休日の割増賃金も出ない、労働時間規制条項がいつさい適用されず、青天井状態で働くこととなります。まさしく「残業代ゼロ」「過労死促進」制度そのものです。

もともと労働基準法で、労働時間を規制しているのは、労働者の働き過ぎをくい止め、健康で人間らしく働き、生活できるようにするためです。労働者を守る、これが労働法の基本です。

この労働法を目的の敵にして改悪しようとしている安倍内閣と財界のもくろみを絶対に実現させるわけにはいきません。

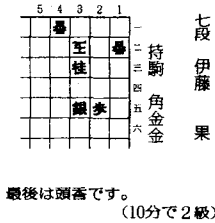
基幹労運も断固反対しています！

「しんぶん赤旗」6月27日号掲載の「鉄鋼現場の危機・神戸製鋼」という記事(「シリーズ・リストラの果てに」という特集の一回目)が話題になっています。日本共産党中央委員会や神戸製鋼委員会のホームページで見ることができます。

### 短歌

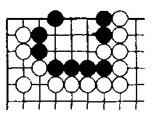
ホルダーに夢と希望を奪われて  
ひとり作業に君が  
枉延も生産目標追われしに  
虚空に消える 安全第一

#### 詰将棋



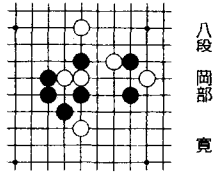
七段 伊藤 果  
特駒 角金  
最後は頭番です。(10分で2級)

#### 詰碁



九段 結城 聡  
黒先 急所を探してください。(5分で初段)

#### 詰連珠



八段 安部 寛  
白先 独特の形。(5分で4級) 【解答は26面】

みなさんの声をお寄せください。情報源はキチンと守りますので、ご安心ください。その声に応じて、会社や労働組合に働きかけていきます。  
TEL: 078-577-6255 Fax: 078-577-2240 メール: info@jcp-shinko.jp ホームページからも送れます (http://www.jcp-shinko.jp)